

号新新

社開新登常所行發
九五町南町平磯島臨
次 藤 藤 伊 人行發
一 港吉町濱名小懸島臨

刊夕日七十月八
一ヶ月 三十錢
一 部 二 錢
廣告料 一行五十錢
場所指定 十錢増
日曜祭日翌日休刊

高木氏は渡邊村釜山疎ら解散せる點であらう、故
訪神社の神職にして七年目に何人もよく迎合する高官
社丈に講中、参拜者種を出入と談しても又談合出来
接する信仰を増長しかるる、職業柄には稀れに見る
なき守り立てる高木氏の勢 四通八達の通人である、短
方と人格的の儲きはまさに所は格別見當らないが、斗酒
崇敬の價値がある先般神社も尙辭せぬの酒家丈に痛
の縣社界格の指定を受ける 欲すればちよいと悪戯も
など神社並に高木氏の高名するやうだ、其悪戯が祟つ
は四隣に響々たるものがあつて御灸がすいられるなど人
間高木氏を良く物語ると云
授て高木氏の長所は職務よひる。
小松マツエ(三)の二名は隔つて病舎は閉舎された。

この天候でこの寒さ あ、不漁の秋

鯉群殆んど見當らず
魚船死者狂への航行を続ける

警城丸は昨日午前八時北緯航行のもののみ、
四十一度十分、東經百五十他縣の船を見るに、三重縣
一度五十分を調査中であつた五六全部魚獲なく、金
たが、附近水温廿七分水比羅丸は昨朝金華山の東北
色良好、メナム、御付良東四〇〇、水温廿度の所
く七百多位の鯉千三百をこて鯉八千本を獲つてゐる。
り他に群を見ざる状態にあつたは午後四時に金華山
つたか午後一時になり同位東北東四百度水温十九度八
置に於いて御付不良のため分の所鯉五百をとつてゐ
一貫多位の鯉二百を獲た。

罪は深し 屋外荒しの男

犯人は被害者の親戚の者?
稾便に納まる模様

十六日小名濱町横町某家所人に付いては被害者當人に
有の如が大變荒されてゐるは大體見當が付いてゐるら
のを當家主人が発見し今なきが、一度のみならず時
はその儘になつてゐる、發折の事なので大いに憤慨し
見のおこりは畑が荒れた。

丁と出るか 半と出るか

今後の天気豫報
待ち受けられる

昨夜の「ドシャ降り」も今
朝になつて忘れられたかの様に
止んだ暫ら暗雲にはりつ
められておつた空が片づ
しから南へ飛び、雲の切れ
目から青空が見え出した。
今日晴れたり曇つたりした
天候、明日の豫報又同じ
測候所長は語る。

昨夜の豪雨で 各所の縣道崩壊

上遠野村と田人村で

上遠野村宇里貝内、縣道崩壊なるも未だ群を見ず、
石川、湯水線ならびに田人西北西に向け調査中、天候
村宇南大平地内縣道三株勿曇り東北東の風力二氣壓七
來線は十六日夜の豪雨に各六十六耗氣温二十二度
四十坪宛崩壊、交通社絶し
たので地元青年團、消防組
出動應急修理中だが十八日
までには復舊の見込み。

色川勝三郎氏奇禍 ベルトにまさ込まれて 無残の即死を遂ぐ

平町才組小路色川材木棟中誤つてベルトに捲き込
式會社社長色川勝三郎(四七)は機械廠で左肩から胸部
氏は十六日午後四時半ごろをケツガケに割かれ無残の
製材工場内で製板作業の手即死を遂げた、色川氏は茨

小名濱町 閉舎さる 避難院

十五名二名退舎

小名濱町では今年八名の
調査七時金華山東北東一四
十度水温十九度七分水色良

漁だより

小名濱 魚市場調査
魚名 魚獲高 單價割
本日水揚げなし

◇天気豫報十七日
明日 北西風晴時々曇り
気温七十五九一

北緯百五十八度東經百五十
二度十分へ航続、水色良好宮城丸は現在干漣の所
であつたが天候曇りにて測測中である。
査する所に依ると氣壓七六以上の三隻のみは成績良
六耗、氣温廿二度此の位置ものなるも他は殆んど問題
に於て鯉與に合はせて網おとする所でない。
ろしたるも不成績に終つた
との報あり。

中吉報があり山とつた漁時こそ小名濱町に際として
船が小名濱港内に入港する太陽が輝く事であらう。

城縣の生れ、立志傳中の人日平署へ捜索方願出た。
である、葬儀は十九日午後
一時平町九品寺で行はれる
女房の捜査願
好間村上好間松田飯坂土
工島野長松妻多子(三)は
去る五日長男徳次(八)次男
肇(七)の二人を連れ家出し
たが最近古河炭礦坑夫朝鮮
生れ山本源(八五)に誘拐さ
れたことが分つたので十六
たので引續き余罪取調中

無銭飲食
常習の土工
小名濱で檢舉
江名町宇永崎、土工朝鮮
生れ朴順九(三)は十六日
小名濱町宇竹町料理店大野
はる方で勘定のことから暴
行を働らき平署に検取調
たが最近古河炭礦坑夫朝鮮
生れ山本源(八五)に誘拐さ
れたことが分つたので十六
たので引續き余罪取調中

江名町折戸 地先海面

埋立地 分譲方法を見て
折戸地先海面埋立工事の第一期分譲地八千二百九十坪の内、第一回分譲分譲地は五千七百五十坪であるが發表當日に約半数の二千五百坪の申込みあり、如何に江名町として埋立地の重要性あるかを現知することが出来る、同埋立地は位置より見るも江名、中之作の中心にあり利用價值より見ても住宅工場地として可、四通發達せる四回乃至三回の道路あり水道の便あり江名町として一廓の市街地をなす想像に難くない。分譲申込者にして一時金融に差支る向きには約土地代金の半金に近い融通方法を御世話すると云ふから一時手持金なくとも土地所有者になれる、殊に六十年間地租免除の特典にもありつけるとの事である、分譲區劃は一つ宅地が七十五坪平均で一人にて幾區劃を申込みも差支なき由、申込者に對しては順次決定すると云ふから早きが徳といふ事になる、特記すべきは第一回分譲地附屬の護岸並に道路の維持費として土地所有者に對し二千圓也を寄附することになつて居る。

江名町折戸地先埋立分譲案内

- 一、埋立免許地
は江名町大字江名折戸地先の公有水面積二萬一千四百九十二坪八合六勺にして(別圖埋立地附近實測圖表)は事務所に申込れたし呈す
- 一、埋立の目的
は道路及住宅工場敷地用に供するものとす
- 一、第一期埋立
は(別色刷圖の如し)
總坪數 一萬二千二百五十一坪四合五勺
内寄付地 一千五百坪
内道路敷 二千二百三十一坪〇合五勺
内護岸敷 三百二十二坪六合
内分譲地 八千二百九十七坪八合
- 一、第一期分譲地八千二百九十七坪八合の内第一回分譲分譲地は五千七百五十六坪八合(六八區)別刷分譲區劃圖(事務所に申込れたし)
- 一、分譲地區劃明細表は(事務所に申込れたし)
- 一、寄附地
は江名町、江名漁業組合の共有にして公共用に供すは幅員四回乃至三回にして(コンクリート)の側溝を設け排水を便にす
- 一、埋立地高
は中之作漁港東側防波堤寄縣道を基準とし護岸に走向して百二十分の一の勾配となし護岸地點に於て磯岩盤より十四尺八寸五分とす
- 一、護岸構造
は岩盤に幅二尺三寸深一尺の床堀をなし下幅四尺高三尺五寸の基礎コンクリートを築造し其上部は五分法の土丹間知石積みをなし表面は厚さ一尺の鉄筋コンクリートを施し一平方米に付七噸の波力に充分なる對應力を有するを以て崩潰覆の恐れなく尙埋立地上高四尺コンクリート土壁を設け波浪に備ふるため埋立地域内に海水浸入の不安なし
- 一、風致と防風
護岸には風致と防風の目的を以て植樹をなす銀行より金融の便法あり(承細は事務所に問合れたし)
- 一、金融
埋立地は地目の如何を問はず六十年間公課なし(免除)申込順により決定す
- 一、分譲方法
福島縣江名町大字江名折戸地先埋立事務所
- 一、申込場所
昭和十年八月 江名埋立事務所

不明の點は事務所に御照會あらせられたし

暑中御見舞 湯本信用無盡株式會社 湯本町長 石川 德 壽 入山採炭株式會社 磐城炭礦株式會社 鹿島村長 志賀 直 哉 江名水道囃托 技師 原 芳 男 植田電力株式會社 植田町 町長 古川 傳 一 助 渡邊國之助 土木請負業 成瀬 巴 三 鷺 清 昇 平町會議員 關 内 正 一 平町會議員 多田井笑次郎		水産試験場製鹽部 小濱名 鹽辛濱名小 繪葉書所 げやみ濱名小 名所濱名小 小濱名古港口 文屋百貨店	藥材生衛 寶屋藥舖 小濱名町古港 電話九三番
活版石版 精確敏捷 長瀬芳郎印刷所 磐城座入口 小名濱中島通り	撞球 波金 ドーヤリビ		